

シンポジウムを終えて

升島 努

8月21、22日開催した第12回生体成分の分析化学シンポジウムを無事終了した時、半年が無為にあっという間に終わった感がしました。

それほど、このシンポジウムは自分にとっては、大事業でした。本来なら故吉田先生がやられるはずのものであったと思います。一昨年自分にこの役を仰せつかった時は、先生の為にも、やるからには、これまでと全然違う企画をして皆さんに喜んで貰おう、また、元気をなくしつつある日本の分析化学の人たちに、明るさを取り戻して貰える夢の多いシンポジウムにしようと色々考えました。

インターネット国際会議も併設し、会場からも国際会議に参加できるようにしよう。FDAから2人呼んで、ワークショップも前日には開きたい。全員泊まり込みとし、夢を語れるナイトセッションを持とう。セッションテーマも全て時代の先取りをしたものを可能な限り多く挙げ、参加者の皆さんに発表内容の考え方を変わってもらい演題を募ろう。若い人に夢を与えよう。場所は、広島でベストのロケーションにしよう。羽田から会場まで、何のわずらわしさもなく直接来れるようにしよう。皆の足を出来るだけ楽に確保してあげよう。非接触ICを使った、新しい登録、参加確認システムを作って見よう。等々……。随分欲張った。そのツケがすべて教室やお世話になった皆さんに回るとはあまり考えずに。

1月位から本格的な事務作業がちょこちょこ始まり、悪い癖で、すべて遅めのアクション開始で、多くの方を色々な意味でせかしてしまった事でしょう。月ごとにその仕事量も嵩んできました。出来るだけ教室員には、近づくまで研究に専念してもらいたいので、踏ん張れるだけ踏ん張ったのですが、途中で気づいた事、インターネット国際会議もやるなんて、二つの会議を同時に開催する事、とても無謀で、無理な事と。しかし、時すでに遅し、色々な欲張りで膨らんだこの企画、ただやるしか、道は残されていないのでした。言ってしまったのだから。結局、だんだん時が近づくにつれ、小澤君や元秘書の金子（坂本）さんにシンポジウムの、田村、鈴藤両君に国際会議の負荷が大きくのしかかって行きました。前々日からは、教室はもう戦場と化しました。その中、遠くから手伝いの為に来てくれた近藤君、深野君、そして

バイト料もないのに、懸命に頑張ってくれた教室のみんな、遠くからわざわざこのシンポジウム参加してくれた河合君、児玉君、当日受付を勤めてくれた元秘書の一橋さん、現秘書役の益田（菅坂）君、コンベンションビューローの下岡さん、プリンスホテルの片山君、色々な配慮を下さった参天製薬の高階様、皆さんの様々な献身的な働きに支えられて、大きな問題もなくつつがなく終える事ができました。恩師今井先生も学生時代の恩師の山岡先生も駆けつけて下さり、薬学の多くの先生方も、座長や演者としても参加して下さいました。

感謝という言葉では、とても言い尽くせない、ありがたさをしみじみ感じました。本当に本当にありがとうございました皆さん。

お陰で参加者の皆さんから沢山のお褒めの言葉を頂きました。その一部を、私のオーガナイザーの方々への御礼文とともに最後に掲載致して置きます。

その週の日曜日、来れる人が集まってくれて、同門会を持ちました。今井先生の頂かれた勲章、はじめて勲章なるものを間近に見せていただいた。先生が照れ隠し？に、あああのグリコのおまけと言われた言葉が、なぜか忘れられない。みんなの元気な顔、学年で固まって来てくれた人達も、みんなの顔の中から、昔がよみがえる。この間の早い時の流れを忘れ、気分は昔に、話は尽きない。とてもうれしい再会であった。忙しい中、遠くからも近くからも来てくれたみんな、本当にありがとう。会場の問題でインターネットや、電話でもつなぐと言っていたの方々には申し訳ない事をしました。出来ませんでした。またいつか会える日を楽しみにして居ます。

今年は、昨年までの研究の評価を頂いた年でもありました。

科研費が、私が基盤研究のBが二つも当たり、小澤君も基盤と奨励の二つも当たり、計四つを一度に頂く事になりました。昨年、久しぶりに空振りを一つした私は、今年は実は正念場だったのです。総額は2000万円を越えるものとなりました。しかし、大きな声では言えないのですが、シンポジウムの方はプリンスホテルのコストが予想以上に高かつき400万円の持ち出し、その補填が出来るだけの財政状況だったのは本当に助かりました。その400万円の赤字だとて、それが、分析化学の活性化の役に立ったのなら、そして、皆さんが本当に楽しんで下さったのなら、うれしい持ち出しと考えます。

内心は一時本当にぎくっとしたのですが。

もう一つ、良いことがありました。小澤君の仕事が、産経新聞（本社大阪）全国版の一面にカラーで掲載されました。（後に掲載します。関東方面は、3面でカラーだったそうですが。）二人ともこの記事が一面に出ようとは思っていませんでした。記者の方もとてもうれしそうでした。薬学には個人的なつてを利用して、無理矢理自分を地方新聞に載せたがる人が居ると聞きますが、そんな気の毒な記事ではなく、実力が載ったこの大きな記事に随分誇らしく、またうれしく感じたものでした。いい気にならないで、今度は、Natureやどの新聞にも載るような成果が出ますように。

インターネット国際会議も終わり、色々な方との出会いを楽しんだ大事業を終えた今、ようやく自分を取り戻しています。

久しぶりに、SPRING-8で活躍している塩飽君と話をし、また、利用者懇談会のお世話をして下さる方々の励ましに、やはりここに僕のチームラインを作ろうかと、つい最近まで思いもしなかった事をふと思うようになりました。八丈島で光音響の会合が間もなく持たれます。その時の雰囲気次第で、もう一つの夢追いのサイトを作るかなと。どうなるか解りませんが、そんな余裕が出てきた事をうれしく思っています。

来年は、アメリカで少し長く過ごす時間を持ちたく思っています。ここで自分を見つめ直し、これからの方向を見定めたく思っています。米国と言えば妹夫婦がフィラデルフィアからサンフランシスコに移りました。義弟がCEOとなって転職したからです。1億5千万株のインセンティブを貰って。1円会社の株を上げると、1億5千万円入る仕組みです。10円あげると・・・。うらやましさは少しだけあるものの、きっと大変、お金にも、もうあまり魅力を感じない歳にもなりました。（必要なだけあればが問題だけだね）

僕らしいスタイルで子どもっぽく夢を追う。

それも世界の上で、フロンティアらしく。

それが今までも、そして、これからも僕らしいテーマではないでしょうか。

そろそろ、そのギヤチェンジの頃かなと思っています。

（追伸：義父（平一蔵）が9月に他界し、年末、年始のご挨拶は遠慮させて戴きます。

悪しからず、お許し下さい。）